みんなの「なんなーの?」を伝えるこども記者のための新聞（毎月1回発行）

信毎こども記者ニュース

発行/連絡先
こども記者クラブ（信濃毎日新聞地域活動部）　〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110　FAX 026-236-3193　電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp
no.44

みんなで俳句を作って記念撮影

一茶の肖像画＝文政版「一茶発句集」より（一茶記念館提供）

一茶に学ぶ優しい心

ことしで生誕250年を迎える俳人小林一茶（1763〜1827年）をテーマにした信毎こども記者クラブの取材教室「一茶に学ぼう！」が1月12日、信濃町の一茶記念館で開かれました。講師は一茶を研究するフランス出身の俳人、マブソン青眼さん（44）＝長野市。こども記者9人は、一茶についてのお話を聞いた後、一茶ゆかりの地を歩き、全員が1句ずつ俳句を作って鑑賞し合いました。その時感じたこと、初めて知ったことをまとめてくれたよ。

マブソン青眼さん（左）の案内で一茶記念館を見学

つらいことがあったからこそ

今回の「一茶に学ぼう！」で一番印象に残ったことは、一茶さんの人生です。悲しいことに一茶さんが3歳（数え年）の時にお母さんが亡くなり、次のお母さんとは仲が悪かったそうです。15歳で江戸へ奉公に出され、働きながら俳句を習い、俳諧師になりました。

信濃町にもどって、52歳の時に28歳のきくさんと結婚し、4人の子どもが生まれましたが、小さいうちに亡くなってしまったそうです。きくさんも病気で亡くしたと聞き、私は悲しい気持ちになりました。

その後も、二度再婚しましたが、柏原宿の大火災で家をなくし、残った土蔵で65歳の生涯を閉じたとのことです。

私は、つらいことや大変なことがあったからこそ、心に残る句ができたのかなと思います。

三沢碧花（信濃町五年）

「差別しない生き方」を学ぶ

マブソンさんに一茶についてお話を聞きました。一茶は江戸に奉公に出され、俳句と出会い、俳諧師を目指しました。一茶はある程度認められるようになりましたが、大変な思いをしたそうです。出身が百姓であることで差別にあい、一茶の一生は苦労の連続でした。そのため、一茶の句からは「小さい生き物を大切にしたり、差別をしない生き方が感じられる」と、マブソンさんは話されていました。そして、「今の日本人に大切なのは、一茶のような生き方ではないか」というお話が印象に残り、考えさせられました。

林部菜々子（長野市六年）

心に残った句会、いい句ができた

俳句を作って句会をするところが心に残りました。一茶記念館を見てまわった後、外に出て、一茶のお墓を見て、俳句を考えました。外に出た時にぼくは、とても寒いなあと思い、これを俳句にしようと思いました。周りを見ると、葉のない木々がたくさんあったので、こんな俳句を作りました。「雪の日も葉のない木たちはコートなし」。

その後、一茶記念館にもどり、みんなで句会をおこないました。作者の名前をふせて書き出し、みんなでいいと思う句を三つずつ選び、得点を付けました。

ぼくの句には意外にも3点入り、3位になりました。その後、マブソン先生のアドバイスで、「墓場なり葉のない木々は雪のコート」と少し変わって、とてもいい俳句ができて良かったです。

池田裕紀（長野市六年）

命の大切さ、教えてくれる

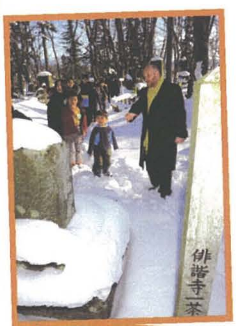
フランス生まれのマブソンさんは、日本人の中で一茶が一番好きだそうです。その一茶のことを教えてくれました。子どもや虫、動物の俳句を作って残した一茶は、自然を愛する心優しい人で、現代の人は見習ってほしいところがたくさんあると思いました。

今の人は、優しい心が少なくなっているようです。いじめや自殺する人を見たら、一茶はきっと命がとても大切なことを教えてくれると思います。だから、私は、愛する心、たくさんのあったかい優しい心を持っている一茶さんをみんなに知ってほしいと思います。

酒井毬杏（長野市四年）

雪の中で俳句を考えたよ

一茶が晩年を過ごした北国街道柏原宿の復元模型＝一茶記念館



みんなで一茶のお墓を見たよ

指で数えながら句を作ったよ

かなえられた一茶のねがい

一茶さんは、52さいのときにきくさんとけっこんしました。こどもを4人つくりましたが、みんなしんでしまい、きくさんもなくなってしまいました。でも、一茶さんは、あきらめないで、やをさんとけっこん。一茶さんは65さいでしんでしまいましたが、やをさんのおなかに、あかちゃんがいて、一茶さんがしんでから、そのあかちゃんが生まれて、やたと名づけられて長生きしました。

一茶さんは、子どもに「長生きしてほしいな」とおもっていました。一茶さんが生きていたころは、そのねがいがかなわなかったのです。でも、一茶さんがいなくなっても、やをさんとあかちゃんは、一茶さんのねがいをしっていて、それをかなえようとしたのでしょう。

音琴光里（松本市一年）

こども記者クラブのメンバーを募集しています。メンバーになると、特製記者バッジと名刺をプレゼント。「こども記者クラブ希望」と書いて、信毎地域活動部までどしどし応募してくださいね。